

2024年11月1日

住友電気工業株式会社

## 「KANSAI DX AWARD 2024」金賞を受賞

住友電気工業株式会社（本社：大阪府中央区、社長：井上 治、以下「当社」）は、「関西デジタル・マンス実行委員会」（事務局：関西経済連合会）主催の「KANSAI DX AWARD 2024」において、「金賞（大企業部門）」を受賞しました。



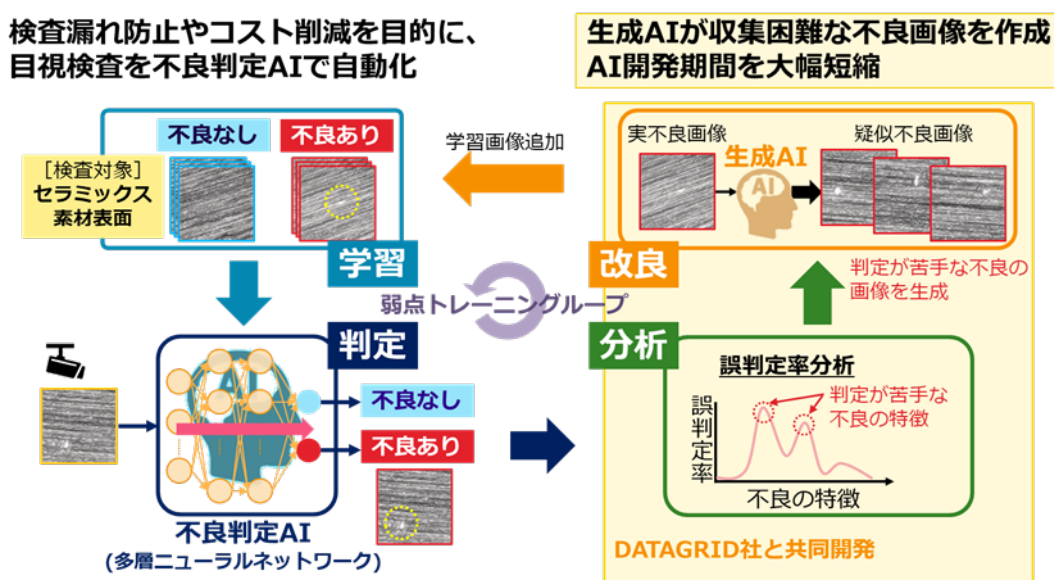
（授賞式の様子、右が当社執行役員情報システム部長 高橋 寛）

「KANSAI DX AWARD 2024」は、関西のDX推進の機運醸成を目的として、「関西デジタル・マンス実行委員会\*1」が2023年に創設した、先進的にDXに取り組む関西企業を表彰する制度です。

当社は、デジタル技術の活用によって、製造業の重要課題として全社を挙げて取り組んでいる「SEQCDD\*2」の改善強化を加速・深化させていくことを、DXの中核と位置づけて、DXの推進に取り組んでいます。2021年4月には社長を委員長とする「DX推進委員会」を立ち上げ、2021年10月には、「モノづくり力強化」「サプライチェーン強化」「働き方改革」「データ活用によるプロセス改善の加速」「DX人材育成」の5つの重点取り組み事項を掲げ、「全社DX計画」をとりまとめました。

具体的な製造現場の取り組みの例として、IoT/AIを使ったモノづくり力強化など、成果も挙げつつあります。製造現場では製品の出来栄を確認するため、目視検査が行われます。良品不良品の製品画像をAIに学習させることで、不良判定AIを開発し、検査を自動化しましたが、製品、現場には様々なバリエーションがあり、展開拡大には課題がありました。

そこで、生産時には稀にしか発生しないため、収集が困難な不良画像を、生成 AI が作成し、これにより不良判定 AI の開発期間を大幅に短縮しました。



こうした当社の DX の取組みについて、このたび「KANSAI DX AWARD 2024」の「金賞（大企業部門）」を受賞しました。受賞理由として、以下を評価いただいています。

- ・ 社長自らがリーダーシップを発揮し、組織的な DX 推進に取り組んでいる。
- ・ 業務効率化、生産向上性が図られており、製造業企業において参考となる取組みである。

当社といたしましては、今後とも、「全社 DX 計画」を着実に実行し、環境の変化に対して的確に柔軟に対応するとともに、さらなる事業拡大の機会をとらえてまいります。

\*1 公益社団法人 関西経済連合会、関西広域連合、総務省 近畿総合通信局、経済産業省 近畿経済産業局、一般財団法人 関西情報センター、独立行政法人 情報処理推進機構、独立行政法人 中小企業基盤整備機構

\*2 S(Safety : 安全)、E(Environment : 環境)、Q(Quality : 品質)、C(Cost : 価格)、D(Delivery : 物流、納期)、D(Development : 開発)をさします。

<ご参考：当社 デジタルトランスフォーメーション（DX）戦略の推進>  
<https://sumitomelectric.com/jp/company/dx>

以 上